

《2009年5月総会報告》

【日 時】2009年5月16日（土）16：10～17：50（→にて懇親会）

【会 場】武蔵野陸上競技場 3F 観覧室（記録室）（武蔵野市吉祥寺北町 5-11-20）

【時程と内容（会場）】

13：30 現地（武蔵野陸上競技場入口）集合

14：00～16：00 JFL 第11節 横河武蔵野 FCvsFC 刈谷 観戦

16：10～17：50 2009年度サロン 2002 総会

18：20頃～ 懇親会（於三鷹駅前華の舞）～22：30頃中締め／～23：30頃最終締め

【出席者（会員）16名】麻生征宏 阿部博一 牛木素吉郎 奥山純一 北原由 熊谷建志 佐藤いちろう 白井久明 杉沢幹生 高田敏志 徳田仁 中塚義実 根本いづみ 藤田直樹 本多克己 室田真人

【出席者（未会員・オブザーバー）1名】庄司悟

【総会欠席連絡者】82名（うち委任状提出は79名）

秋元大輔 浅野智嗣 安藤裕一 池田誠剛 石坂友司 石田まどか 泉優二 井田正次郎 伊藤慧 伊藤禎治 伊藤洋次郎 井上俊彦 井上俊也 宇都宮徹也 梅本嗣 大塚正洋 岡村理恵 賀川浩 笠野英弘 金子正彦 加納樹里 菊池正史 岸卓巨 五香純典 木幡日出男 齋藤健司 笹原勉 貞永晃二 澤井和彦 塩沢拓也 嶋崎雅規 島原裕司 清水諭 庄田守男 高木亮 高崎康嗣 高橋義雄 高原涉 多田寛 辰巳義和 田中俊也 田中理恵 田部学 田村修一 茅野英一 土谷享 豊田幸夫 仲澤眞 中曾千鶴子 名方幸彦 中村敬 西村祥央 野口良治 野田直広 半澤隆憲 福西達男 藤岡知彦 藤田稔人 麓信義 堀美和子 前田博子 松田保 松本行弘 峯山典明 宮明透 宮川淑人 宮城島清也 武藤太智 武藤文雄 村木初年 室田真人 望月浩一郎 本杉亀一 安松幹展 山内紘子 山田告人 山本浩義 由利英明 横尾智治 吉村修 依藤正次 割出勇也

※委任先（79名）内訳

中塚義実（含中塚理事長）…42名

中塚先生（含中塚さん、中塚様、中塚氏）…12名

理事長（含代表）…2名

議長…14名

総会（当日参加される方、総会の議決。全て委任）…6名

理事会…1名

徳田仁…1名

佐藤いちろう…1名

【議決成立要件】2009年度会員数（総会時） 141名（ただし2009年度会費未納者を含む）

出席者数16名、欠席連絡者82名のうち委任状提出者数79名、合計95名で、定足数に達した。

参考）2006年度は109名中、出席16名、欠席連絡かつ委任状提出49名、計65名（欠席連絡は52名）

2007年度は127名中、出席13名、欠席連絡かつ委任状提出66名、計79名（欠席連絡は73名）

2008年度は143名中、出席7名、欠席連絡かつ委任状提出86名、計93名（欠席連絡は90名）

【議 長】中塚義実（理事長）…規約による

【議事録作成】室田真人

【主な決定事項】

◆組織の充実について

- ・2010年度より、年会費は一律3,000円とする。これ以外に寄付金を積極的に受け付ける
- ・2010年度より、希望者に対して、年会費の自動引き落としシステムを導入する。
- ・「新規入会者の初年度会費を無料に！」について議論し、「10月以降の新規入会者について、初年度会費は翌年度末まで有効」とした。

◆月例会の充実&他の組織、他の分野との連携について

- ・サロンの月例会として位置づけるのは、原則としてサロンが主催または共催するもの。他団体の行事への協力は積極的に行うが、基本的には広報支援。他団体との連携の際には、情報の管理、報告書等の扱いなどについてあらかじめ調整しておく
- ・総会と公開シンポジウムを除く月例会は、“ホーム”で毎月定期的に、計10回開催する。理事長と企画担当理事（阿部・高田・高橋）、および事業担当運営委員（嶋崎・宮川・室田）を中心に、早めに準備を進める
- ・本年度の公開シンポジウムは、12月頃を目処に、オリンピックやワールドカップなどの「メガイベント」をめぐる問題を取り上げたい。月例会でも積極的にこの問題を取り上げる
- ・いまのところ、6月12日（金）に月例会（土谷享氏：スポーツとアート）、7月某日（未定）に月例会（2010年南アフリカ大会へ向けてーコンフェデ杯報告）、7月28日（火）にお出かけサロン（川崎競馬体験ツアー）が決まっている。また、5月31日（日）は賀川浩氏が講演される日本サッカー史シンポジウムに協力する。
- ・関西サロンは、平田さん追悼企画と、水都大阪のアートイベントをめぐる、計2回は開催したい

◆規約の見直しについて

- ・第4条（会員）と第5条（会費）を一つにまとめ、「会費を払った者が会員」ということを規約上明確化する。これについては2010年年度の会員募集に間に合うように準備する。
- ・附則に会費が年3,000円であることを明記する。これも2010年度より。

◆ 目 次 ◆

0. はじめに

1. 2008年度事業報告及び決算

2. 2009年度会員募集について

3. 理事会（2008.04.25）報告および審議

1) 組織の充実と規約の見直し

- ①会費と寄付金の整理&オンライン化の可能性と課題
- ②会費と参加費の関係／新規入会者の初年度会費問題
- ③会員資格と会費納入の関係ーサロンの理念と規約第4条、第5条のずれ

2) 月例会の充実

- ①月例会の位置づけ／他の組織との連携
- 2) 月例会の充実
- ②公開シンポジウムのテーマ
- ③その他

0. はじめに

中塚：2009年度の総会を始めたいと思います。議事進行表という資料が今日のお題です。

議決成立要件を確認します。総会時で入会意思を表示されている方は141名。ただし、会費未納者も含んでいます。出席者は16名です。欠席連絡をされた方で、委任状を提出されている方が79名います。委任状の内訳は、「中塚義実」もしくは「中塚理事長」に委任しますという人が42名。「中塚先生」や「中塚さん」は12名います。大阪にもう一人の中塚さん（中塚頼彦氏）がいますので、ここは分けています。それに、「理事長（含：代表）」が2名、「議長」が14名で、総会参加者の過半数の票をすでに私は持っていて、総会が始まるという状況です。

この他は、「総会」に委任された方が6名、「理事会」が1名、徳田仁さんが1名、佐藤いちろうさんが1名となっています。

このように、総会としては成立しております。

参加者の自己紹介・・・省略

会に先立ちまして、特に関西地域の方は関わりの深かった、会員の平田生雄さんが、昨年度急にお亡くなりになりました。みんなで黙祷を捧げたいと思います。

黙祷

本来でしたら昨年度末の総会で全部終わっているようなことですが、いろいろと事情があり、翌年度の5月に事業報告、それに一部は審議を行なっています。

報告事項としましては、「2009年度の会員募集の報告」、「理事会報告」、そして「審議事項」となっており、審議に時間をかけたいと思っています。「事業計画及び予算に関する事項」、「2009年度のスローガン」という、このあたりを軸に「組織の充実」、「月例会の充実」、「他の組織、他の分野との連携」について時間をかけられるよう、進行して参ります。

「組織の充実」のところでは規約の見直しについて話が出てきますので、そのあたりも議論できたらなと思っています。

総会の議長は、理事長が務めることになっていますので、私の方で務めさせていただきます。

1. 2008年度事業報告及び決算

中塚：2008年度事業報告及び決算について、話を進めます。

月例会は、毎月やりました。だけどそのうちの3回は出張サロンで、1回は公開シンポジウムで、1回はお宝映像上映会・忘年会、ということで、「ホーム」とも言える筑波大附属で開かれたのは6回だけでした。

公開シンポジウムに関してですが、今日も総会前にJFL第11節 横河武蔵野FC vs. FC刈谷の試合を観戦しましたが、地域リーグからJFLあたりをテーマにしたシンポジウムをやりました。そして、まさにその日に、前年の公開シンポジウム報告書が完成、会場で配布・頒布しました。また、出張サロンと呼んでいたものを、3回やることができました。

決算書を見ていただけますか。これもすごく大変だったんですけど、昨年度の会計を担当されていた川井さんが文科省から岡山大に異動になり、年度末のどたばたと異動のどたばたです仕事で滞ってしまったのですが、ようやく決算書が仕上がってきました。

「会費収入」は、462,000 円。「前年度繰越金」が 40 万円もあったんですね。支出の方は、「プロジェクト補助」の中に「シンポジウム補助」と「プロジェクトその他補助」があります。ホームページ・リニューアルプロジェクトということで、本多さんのところでつくってもらい、そこでかかった経費がここに反映されています。

「事務費」のところは概ね例年通りですが、新たに「旅費」という項目を設けています。これは、岡山や熊野に行つて現地で仕事をする人に、上限 3 万円として、これが反映されています。

「会費受入」のところですが、毎年問題になることですが、サロンは、名簿原稿を提出し、かつ会費を納めた人を会員としています。しかし実際は、名簿原稿を提出した時点で、会費を払わなくても通信だけは送るようにしています。そうしないと督促もできないからです。ところが、通信は受け取っているけど、2008 (平成 20) 年度の会費を納めてくれなかった方が、年度末に 40 人くらいいました。そこで大急ぎで川井さんとぼくで督促して、昨日の時点 (2009.05.15) で 13 名にまで減っていました。メールで督促したり、個別に電話で連絡をしましたが、それでも未納の方がこんなにいるというのは、もうしょうがないかなということで、切る方がいいと思っております。

そういうことで、決算のところ何かございませんか。
理事の方から何か補足があればお願いします。

熊谷：未払いの人っていうのは、ぼくの印象からすると、年々増えているのかと感じているのですが。それに、過年度の未払いの人も増えてきている印象を受けるのですが、いかがでしょうか。

中塚：過年度の未払いはあり得ません。退会という形を取っていますので。去年の退会者は、そんなに多くありませんね。今年は年度末に督促し損なつたという事情があつて、このようなことになっていると思われまふ。これはあとの議論になりますが、実はこのようなことを毎年毎年繰り返しており、会費の督促が相当大変なのです。未払いの人はうっかり忘れていくケースが多く、悪気はない。だから、これをオンライン化して、自動引き落としみたいな形ができないかという話が理事会で出ていました。そのことについてはまたあとで議論したいと思ひます。

監査報告が、決算書の裏側にあります。そこに筑波大学の斎藤さんからのコメントがあります。今日は公用で来られないので、文章での監査結果報告となっています。「1. 事業について」、「2. 会計について」、「3. 次年度以降に向けての改善すべき点を以下の通りご意見申し上げます」、とこの 3 項目挙げていただいております。何かわからないところはありますか。

高田：会計担当は、今年誰がやられるのですか。

中塚：岸さんです。

高田：川井さんと中塚さんの公務員の規定によっていろいろと大変な点があるようなので、もしないければ私がやろうかなと思っていたんですけど。

中塚：1人では厳しいと思います。だから何人かでサポートしてもらいたいですね。

いま高田さんが言ったのがどういうことかということ、本来は通帳を持っている人がカードも持って引き落としをして、引き落とししたということを通帳に記入してチェックできればいいけど、川井さんが文科省のお役人だということで、通帳の管理はできるけど、カードを持つことができないという、ややこしい状態で進んできたのです。つまり、引き落とししたり、振り込んだりする作業はぼくがやって、それを後日川井さんが記帳しに行く。すると時差が生じるんです。さらに、いま川井さんは岡山に行かれたので、みずほ銀行のATMが近くにないそうです。もっと悪いことに、本年度会計の岸さんは釧路です。釧路出身の徳田さんいわく、釧路市内にみずほ銀行のATMはないとのこと。だから余計にオンライン化を進めないといけないぞ、という状況です。

高田：うちのマンションの1階はみずほ銀行です。それと、オンラインでやるようにすれば、記帳しなくてもネットで24時間見ることができます。

熊谷：みずほにこだわる必要がないのであれば、ネット銀行ならばいつ振り込まれたかという、自動通知メールがあります。

理事会のあと、みずほについて調べてみたんですけど、自動通知メールサービスはやっていません。メインバンクはいろいろと制約があって、手を出せる分野と出せない分野があるんです。ネット銀行なんかの自動通知メールサービスを使えば、会計やウェブ担当の方に入金があったことの確認ができるので、わざわざ記帳しに行かなくても確認することができます。そういう仕組みができるんじゃないかなと思います。

中塚：それはできますか。

熊谷：もう少し調べてみないとわかりませんが、そうですね。

中塚：それでは、会計の岸さんと、高田さんにもそのあたりのサポートに入ってもらって、熊谷さんのメーリングリストのところとも関わってくるので、そのあたりで連絡を取ってもらって、今年度中に自動引き落としシステムの方でやっていきましょう。

それでは、決算の方ですけど、よろしいですか。特に問題なければ、これで承認されたものにしたいのですが。

高田：シンポジウムの旅費に関してなんですが、宮明さんの旅費はどうなっていますか。

中塚：20年度決算書のシンポジウム側の支出としては、演者への謝金だけです。3人の演者の方に、月例会相当の謝金を1万円×3。大分から来られた宮明さんについては、サロンの旅費規程に従って3万円渡しています。それが、全体会計から出ているはずなのですが…。

・・・入っていないですね。これはおかしいです。この旅費のところ、宮明さんへの3万円が入らないといけません。それはもう支出しているので、執行はしています。

これは川井さんとの話では、旅費は全体会計の中から出すとしているので、実際にはここには

載せてありませんが執行しています。

高田：旅費のところは、3万円プラスになっていればいいですね。

中塚：実際にそうになっているはずですから、旅費のところは宮明さんへの3万円を加えて、155,160円が正しいです。すると決算の合計も変わってくるので、支出の合計も725,781円から755,781円になります。すると繰越額が変わってきて、108,105円になりますね。
このあたりについては、帰ってから、川井さんと監査の斎藤さんに確認します。ただ、考え方は事前にすりあわせをしまして、それ以外のところは問題ないと思います。よろしいですか。

→ 承認

注)「2009年度サロン総会議事録資料」の決算書・予算書は、総会での議論を受けて修正したものの。

2. 2009年度会員募集について

中塚：2009年度会員募集について、に入ります。

2008年度会員で、退会の意思表示をされたのは、6人（小西由佳里さん、手塚一志さん、高木宏行さん、涌田龍治さん、川井寿裕さん）いらっしゃいます。この中で涌田さんは、ずっと運営委員でメーリングリストの担当をされていましたが、仙台の大学にお勤めでいろんな仕事が回ってくるためサロンの仕事を続けられないとのことで、今回退会となりました。

そこで、熊谷さんにメーリングリストの担当を引き受けていただきました。

また、川井さんも退会の意思表示をされていたのですが、説得の結果、21年度も会員として継続することになりました。

新規入会は、望月浩一郎さんから根本いづみさんまで、計16名ありました。

会員数は、146-6+16（2008年度会員146名-6名の退会者+16名の入会希望者）、それに2008年度の会費未納が今のところ13名なんですけど、それを引き算した数か、会員数です。

3. 理事会（2008.04.25）報告および審議

中塚：理事会報告に移ります。これはすでにメールで回っているものです。

4月25日に理事会が行われました。月例会150回記念の日でしたけど、いろいろ議論しました。議論したものを引き続き、審議事項のところでも取り上げていきたいと考えます。

それでは審議事項に移ります。

2009年事業計画及び予算についてです。サロンは何をするのかということですが、規約には、「月例会の開催」「プロジェクトの承認」「サロンと目的を同じくする団体への参加」「ホームページの運営」「その他」となっています。オフィシャルサイトでは、サロンの活動として「月例会」「プロジェクト」「合宿・お出かけ・出張サロン」「情報発信」が挙げられています。

これらに則して話を進めてもいいのですが、せっかく理事会提案として今年度のスローガンが出てきているので、これを柱にしながら、今年度どのように進めていくかを、より具体的ななど

ころで話していければと思います。

まず「組織の充実」ということです。先ほどから出てきている、会員情報のオンライン管理・自動化。これは集金システムについても含まれます。それから、会員・会費・寄付金の考え方についてです。会費は、現在一口 2,000 円です。一口会員が 3,000 円というやり方をしているけど、一定額を徴収する方がやりやすいんじゃないかという話があります。それで、今年度議論をして、来年度から実施できればと考えています。

「月例会の充実」に関しては、先ほども少し言いましたが、ホームでの開催を多くやりたいということです。それから、これまで出張と言っていたスペシャル版を積極的にやっていくことと、その整理をどうするかということです。

それとの関連で、「他の組織、他の分野との連携」をどうするかということです。

1) 組織の充実と規約の見直し

①会費と寄付金の整理&オンライン化の可能性と課題

中塚：それでは、「組織の充実」から話を進めて参ります。具体的な提案として1つは、初年度会員の会費を無料にしてはどうかという案が出ています。その根拠は、例えば12月の月例会に会員じゃない人が参加して、面白そうだから入会しようと思っても、そこから3ヶ月しか有効期間がない。そうこうしている間に入会手続きを忘れてしまうということがあります。佐藤いちろうくんがまさにそうなりそうだったんですけど。そのときに、初年度は無料ですよとしておけば、そこでつながっていくのでいいんじゃないかということが議論の発端です。これは月例会の初回参加費を無料にしたのと同じような効果を期待しています。

まずここから議論を進めていきたいと思います。いかがでしょうか。

高田：普通に入った場合はどうするのですか。今年度は最近募集しましたよね。4月の一斉募集の時にいった人も初年度ですよね。

中塚：根本さんのような場合はだめ、2回目だから。出戻りは(笑)。それは初年度ではないです。

白井：払ってもらうけど来年度分までの会費とした方が、メリハリがあっがいいんじゃないかと思うんですけど。

中塚：これは自動引き落としシステムと連動してきますね。つなげましょう！今年度はこのままでいくので、次年度からどうするか。

昨年度末の理事会であった、徳田さんの会費納入についての発言ですけど、「自動引き落とし(口座振替)にしたい」ということと、「新規会員については初年度の会費を無料にし、ただし、何月であっても入会時に翌年度の会費を納入してもらう」、というのが最初の徳田さんの案でした。自動引き落としにするには、何か紙に書いてもらわないといけないわけですか。

高田：そうですね。だから、少なからず最初は何らかの手続きをすることにはなります。

この口座から勝手に落としてくれといっても、それはできないので、当然ハンコがいます。オンラインの場合はありませんが。日本の銀行だと、サロンからの引き落とし要求があったら、

いいですよ、というのを出さないといけないんですよ。だから、こうした手続きは入会後のルールとしてやってもらわないといけません。

さっきの徳田さんの案だったら、今年の会費はなしで、毎月落とすのか、年度末に落とすのかも選べると思うので。

熊谷：ぼくの大学のクラブのOB会は、会費を自動引き落としでやってくださいということでやっていますけど、強制でやるのは無理があるみたいで、寄付金をお願いする形でやっています。会員が自ら登録しなければならないということがあるんですけど、どうしてもOBとしてクラブとつながっていたいと考える方は、自動引き落としにしていた方が安全だということで、半分くらいの会員が手続きをしてくれますね。

管理の方、つまりサロンとしてはお金がかかることはないみたいなので。実際にやるとしたら、改めてそういうことを会員にお願いしなければならない、ということ想定しています。

牛木：会員全員に自動引き落としにさせるというのは、どういう趣旨なんですか。

中塚：そういうことをできないか、ということです。

牛木：それは現実的でないと思いますね。ぼくもいくつものOB会などの会に属していますが、自動引き落としを希望する人には自動引き落としにするし、そうでなければ毎年払ってもらうというシステムです。全員自動引き落としにすると、手続きをしない人も出てきて、そういう人たちは会員ではなくなるんですね。それは本人の都合を無視したやり方で、自動引き落としにすることによって便利になるのは会の方ではなくて、払う方なんですよ。毎回通わなくていいわけですから。だから、自動引き落としにしてくれと言ってきたら、自動引き落としにしてあげますよ、という制度にするのが便利なところだと思います。

中塚：この話とメーリングリストとの話を連動させたいな、という議論がこの前の理事会で出ていて、会費を納入してもらったら、自動的にメーリングリストに登録することができる。そういうふうにしないと、ここでもやはり時差が生じてきます。去年も一件、会費を払ったけどメーリングリストの情報が来ません、というのがありました。それを、例えばホームページ上でなんとかできるようにならないかな、ということがあって。

本多：できないことはないけど、労力等を考えたときにそこまでのシステムを作る必要があるのかな、と考えてしまいますね。

熊谷：そういうシステムにしてしまうと、お金がかかります。

高田：カードでやっていたとしても、メーリングリストに追加するにも、システムでやっても、別のところで人の手がかかってくるんですよ。クレジットカードでネット販売をするときみたいに何万トランザクションが発生するときにはそれでいいけど。会費の納入だと145回くらいのものであれば、時差のないように、連携を密にした方がと思います。川井さんの仕事が忙しいようでしたら、他の人がやるとしたほうがいいです。

納入したら自然とメーリングリストに登録されるというシステムは、金をかければ当然作れますけど、年に100回程度のアクションのために深く検討するよりは、人の対応として、去年の事例のようなものが出ないようにした方が現実的です。

私のようにシステムを作っている側の立場の人が、そのようなお客さんがいたとすれば、そんなにお金をかけるのは無駄ですよ、人がやって方がいいですよ、と言いますね。

熊谷：そうですね。こちらの方をシステム化するより、このあとでてくる名簿に関して、そっちの方をワードファイルで毎回書き直しをするより、オンラインで管理する方がいいと思います。

高田：システム化をするのであれば、そっちをやった方がいいですよ。画面を作って名前を入れたら、更新されて、閲覧可能にしたら見られるようにした方が。

自動引き落としシステムというのは、さっき牛木さんがおっしゃった通り、希望すれば金融機関に登録すればできます。さっき中塚さんがおっしゃったのは、引き落としの登録をした情報をもとに、メーリングリストの追加やなんかをできればいいという話ですよ。それでも、接続のところでは必ず人が介入しなければならないので、そこはシステムにこだわる必要はないんじゃないかと思います。

それで、引き落としのシステムは作る必要は何もなくて、金融機関に登録手続きをすればいいだけなんで、それはやればいい。そのインプットを、メーリングリストの追加作業の仕事を軽減させるためにシステムをつなげるのは、それほど必要ないんじゃないかと思います。そして、引き落としを希望する場合は、任意でやる。もしくは、毎年振り込む。そういう形でいいんじゃないかなと思いますけど。

牛木：だから、分けて考えなければならないんです。会費の納入とメーリングリストは別の問題であって、それと連動して考えているからごちゃごちゃしている。お金を取る・納めるといふのと、連絡を送るといふのは別の問題なんですよ。

中塚：それでは、2010年度から、自動引き落としを希望する人にはそれができるということにしましょう。その際、会費はいくらにしましょうか。

高田：固定の方がいいと思いますよ。

徳田：2口（4,000円）以上払ってくれた人って、5人くらいじゃないですか。

中塚：実際にはもっといますよ。4,000円の人が結構いました。

高田：2口だと何かあるんですか。

中塚：特にないですね。

高田：では、会費は固定にして、賛助金という形で計上するとか。

徳田：この前もこの議論の途中までいったんですけど、2口目からは寄付金にしよう、と。会費を超えて納入してくれた分は、寄付金・賛助金にして。1口と2口の違いが曖昧じゃないですか。

牛木：寄付金みたいなものには、1口2口というのはあるけど、会費に1口2口というのあまり適当ではないんじゃないかな。

中塚：会費は固定。プラスαは、寄付金扱いということでいきましょう。もちろん、プラスαを拒むものではない！

本多：よく永年会員というのがあると思うんですけど。例えば3,000円のところを30,000円払えば一生払わなくてもいいとか、そういったことも、システムを変える来年から検討してもいいのかなとも思いますけど。

牛木：それも検討してみる価値はあるけど、そういったものはOB会みたいなものが合っていて、サロンのような会に合わないような気がするね。

②会費と参加費の関係／新規入会者の初年度会費問題

中塚：それでは、定額にすることは決定で。金額を3,000円にするか、4,000円にするかは事業のなかみによって変わってくるんですけど。21年度の予算案を先に見てもらえますか。

20年度の決算が少しずれたので、前年度繰越金が108,105になります。収入の合計は571,000円ですね。従って支出の内訳も少し変わってくるかもしれません。

実は昨年度いっぱい繰越金があった分を食ったんですね。旅費に対する補填であったり、ホームページのリニューアルであったり、いろいろとそういうのが出てきたので。そこで、予算に見合った事業計画を立てていかなければならない。ということで、だいたい前年度よりも減額の予算になっています。会計担当の川井さんとも言っていたんですけど、サロンの収入を会費収入からしか想定していないので、それで会費額を一定にしたときに、どれくらいに設定すればいいのかが重要な問題だろう、と話し合っていました。

ぼくは4,000円くらいがちょうどいいかなと思っているんですけど。

牛木：会費によって何をまかなうかが重要だと思うんですけど、何をまかなうのですか。

中塚：これらの事業です。

牛木：例えばプロジェクトに関しては、独立採算でできるようにしたら、それに対する補助はそれほど必要ないんじゃないかと思うんですけど。

だから、経常的な費用を会でまかなうようにするべきだと思います。月例会は月例会で集めたお金でまかなうということにすれば、それほど多額の会費を取ることはないと思います。メンバーであることの、いわば証拠金だと考えれば、あまり高くすることは望ましくない。それにこのご時世に値上げするべきではないと考えます。それよりは、月例会やプロジェクトを独立採算でやれるようにしたい。赤字になったときには、補填してやる、というスタイルでいいのではないのでしょうか。

中塚：全くおっしゃる通りで、もともとそのような考えでやっていたんですよ。ただ、月例会だけを取ってみても、月例会参加者をもっと増やそうということで、初回参加者の参加費を無料にしていたりしたら、独立採算にはならなくなって、補填する形になっているわけですね。どこから補填するかといったら、会費の部分から補填する。シンポジウムについてもそうなんですけど。だからそのあたりの考えを整理しなければいけないですよ。

北原：ぼくは参加費は誰からも取るのが基本だと思います。参加したいと思っているから来ているわけで。そこで参加費を取っても特に問題はないのではないかと思います。

高田：あとは、シンポジウムと月例会が同じというのを考えた方がいいと思います。月例会の 1,000 円とシンポジウムの 1,000 円は違いをつけた方がいいのかな、と。シンポジウムが高い方がいいと思います。

牛木：シンポジウムをやるときは、会場費がかなりかかるので、受益者負担というふうに考えれば、シンポジウムを 1,000 円ではなかなかやれないですよ。

高田：去年はシンポジウムにあれだけ来たと思っても、55,000 円です。一昨年なんかはかなりの人が来ましたが、学生・院生が 30%もいましたらかね。だから、収入が少なかったです。差をつけてもいいのかなと。2,000 円くらいでもいいんじゃないかと。

中塚：月例会初回参加者の無料化をここ 2 年くらいやったけど、メリットはあったんですかね。誘いやすいということはあったと思うけど。

牛木：カルチャーセンターでは、見学者は無料にしています。だけど、2 時間の講座で、見学時間を 1 時間だけにしている。というのも、毎回見学に来られると困るので、そういう規則にしている。実際問題としては、ぼくの場合は途中でお帰り下さいとはいわないわけですよ、2 時間で一つのつながりになっているわけだから。同じ人が 2 度も見学に来るのはないですから。だから、初回無料というのは、アイデアとして悪くないんじゃないかなと思うんだけど。

本多：サロンの姿勢として、みんなを誘い合ってきてほしい、初めての人に門戸を開くという“形”を示すにはいいのではないかと思います。ただ、実際に効果があったかという、ほとんどなかったんじゃないかなと。でも、姿勢としてやっていくのはいいのではないのでしょうか。

庄司：日本人はどうしても、情報と水はタダ、という習慣があると感じるんですよ。さっき出たサークルとかレッスンとか講習会というのは、毎回繰り返しじゃないですか。ぼくは月例会とかシンポジウムというのに出て、発表されている内容を見ると、時間をかけて、現地に行ったところの報告だから、貴重な情報が 1 回ぼっきりなんですよ。その情報は価値があるよ、ということで、初回からお金を取っていいんじゃないかと思えますけどね。この会で発表する情報は貴重ですよ、ということを示すためにも。

牛木：シンポジウムのように、こういうことをやりますよ、誰が出ますよ、と宣伝してやっているものは、聞いてみないと分からないかもしれないけど、2,000 円の価値があると思って払うわけですよ。月例会は、先ほども言ったように、見学であれば、ここで本当に価値のある情報があるのかというのをお試しでいいんじゃないかと思えます。それが効果があるのかは、本多さんが言ったように、わかりませんけど。でも、筋が通らないといことはないと思う。情報は有料だっていうけど、実際に有料に値する情報なんてほとんどないんですよ（笑）。お試しが必要なんですよ。

奥山：誘われた側から一言。昨年ぼくは初めて誘われて、それで今年から入会しました。そのときに、野田さんという方から誘われて、無料かどうかは気にしませんでした。たぶん野田さんが誘う

んだから面白いんだろうということで、行ってみました。

それでなんでぼくがすぐに入らなかったのかというと、最初の話にあった通り、12月に入って3月に終わってしまうのは寂しかったので、4月まで待ちました。という意味では、初年度の年会費が無料だとありがたいです。誘われた側の経験として、そのように思います。

高田：初年度は無料だけど、手続きだけはその年に払うというという方がいいかなと。東京都の審判の制度もたしかそうだったと思います。10月に入会して3,000円振り込んだとしても、そのお金は翌年度の会費として計上するので、実質的には初年度は無料ということになります。

白井：初年度無料という形ではなくて、“翌年度の会費としてもらいます”とした方がいいんじゃないかと思います。

高田：では、年度初めに入ってくる会員はどのように扱いますか。2年間無料という形にするのか、年初に募集をかけたときに入った人は、ありなのかなしなのか、という問題は必ず出てくると思います。10月に入ったら18ヶ月、4月に入れば24ヶ月無料だということになり、不公平だという意見も出る可能性はありますよね。それはサロンとして考える問題だと思います。

中塚：その件について、サロンとしてあまり細かいルールを作るのは、組織として馴染まないの、いま奥村さんが言われたように、途中から興味を持ってくれた人は連絡先を教えてもらって、そのときに振り込んでもらった会費は、さっき白井さんが言われた通り、翌年度の会費として有効ということします。

ではどこまでなの、というところは、事例が出てきたときに判断ということにしましょうか。

白井：目安としては、前期くらいまでとか、決めていた方がいいですよ。ぼくも研究会でやっているのはそういうやり方なんです。12月入会だと、事実上請求書は出さない。4月入会として処理をしています。一応弁護士相手だからクローズドだけど、5,000円だから、数ヶ月でまた請求だと。目安としては、前期がいいと思いますよ。

中塚：10月か！ 10月以降入会申請者は、っていう感じですか。

高田：きりがいいから、そういうことにしましょう。

中塚：最大1年半有効ということですね。文言は後ほど考えることにします。

それで、月例会の初回参加の件は、いろいろと考え方があってもいいけれど、2年やって、みえないところで成果もあるような気もするので、もう少し継続してみよう。

その部分は、月例会が独立採算にならないかもしれないけれど、会員の総意で集まった会費で補填するということにしていきたいと思います。

それでは、「組織の充実」のところでは、2010年度からは自動引き落としを希望すればできるということと、会費を3,000円のままということになります。3,000円を超えたところでは、寄付金扱いということにします。

こういう形で進めていきたいと思います。

③会員資格と会費納入の関係ーサロンの理念と規約第4条、第5条のずれ

中塚：では「会員資格と会費納入の関係ーサロンの理念と規約第4条・第5条の間のずれ」という議論に移りたいと思います。

いろんなところで言っているのですが、サロンの会員は、自らの氏・素性を明かし、かつ会費を納めた人なんです。だから名簿原稿を出して、かつ会費を納めたら会員になれる。だけど名簿原稿を出しただけの人にも通信を送っているのは、先ほど言った通り、つながっていないと督促すらできなくなるからですね。

それを規約に落とし込んだときに、最近気付いたんですが、第4条のところでは、「サロン2002設立宣言に賛同し、かつ第2条に掲げる目的のために活動する者で、年間会員登録を行った者とする」で、第5条では「会員は、別に定めるところにより、年会費を納入するものとする」と二段構えになっているんですね。どうでしょうか。すぐに直すべきだというわけではないんですが。

高田：年間会員登録を行ったものとする。その次に、会員登録とは、名簿の提出と会費の入金を合わせたものとする。そして、会員登録は、原則として、毎年3月末までに行う。そうすると、第5条はなしでいけると思います。

私は4条と5条は一緒にしていいんじゃないかと思います。

中塚：ですよね。それでは、その方向で書き直しましょう。

では、どうしましょう。規約の承認というのは理事会ですのですが、どこかで臨時総会をネット上で行っていきましょう。

という形で、いいですか。

牛木：今までの考え方はおおよそそれでいいと思うんだけど、年会費の納入と会員登録を同じようにするとこういう矛盾が生じてくるんだけど。会員登録をするということは1つの行為であって、会員登録をした者が年会費を納めなければならないと、会員登録と年会費の納入とを別に考えて、年会費を納めないと会員の資格を失うというのが、普通われわれが入っている会はそうだと思うんですよ。

年会費を納めたことが会員の資格があるということは、卵が先か鶏が先かということになっちゃうんです。会員は認めると。しかし会員になったら年会費を納めないといけない。納めなかったら除籍する。順番としては、これなんじゃないかなと思います。でも、今までのやり方が悪いというわけではないので、そういったことを念頭に置いて文言を作ってもらえればと思います。

中塚：ちょうど同じ議論を筑波大学サッカー部OB会の規約作りのところでも言っています。OB会も、会費を払った人が会員なのではないかという話をされていて、OBなんだけどOB会員じゃない、という考え方を取り入れようと議論しています。

サロンでは会費を納めて会員だという形でできているので、そういう方向でまとめていきます。

組織の充実のところはいいですか。

2) 月例会の充実

①月例会の位置づけ／他の組織との連携

中塚：「月例会の充実」ということで、月例会だけでなく、公開シンポジウムなども含めて意見をいただけたらと思います。

合わせて、議題の3つ目の「他の組織、他の分野との連携」、1) どころ連携できるか、2) 連携のルールは必要か、ということも話したいと思います。

昨年度は「地域スポーツ」をテーマに掲げ、積極的に外に出て行こうとして岡山・金沢・熊野に行ってきました。ただ、われわれの言う「出張サロン」にもいろいろなものがある、受け入れ側が主催でサロンが協力するやり方もあれば、サロンが主催で向こうに持ちかけていくものもあります。これまでもそうでした。

例えば今回金沢でやったのは、金沢 21 世紀美術館の主催、協力がサロンという形でした。実は報告書はすでにできあがっていて、あとはホームページにアップするだけなんですけど、主催があちらなので主導権を握られており、確認をいろいろしてもらって、載せていいよという段取りになるため、大変手間がかかります。それから、熊野でやったものも、主催は別のところで、われわれが協力なんですけど、例えばそこでの報告書の扱いなど、事前につめておかねばいけないことがいろいろとあるだろうなと思います。

それと、出掛けた人にとってみれば、毎月活発にやれていていいんですけど、大部分の人は出掛けられないわけで、そうすると月例会が年に 6 回しかなかったんじゃないかということにもなりかねません。だから、そのあたりを整理しようじゃないかということです。

徳田さんが問題意識を持って発言されていたので、お願いします。

徳田：主催がサロンでないものを、サロンの月例会にしているのかということに関して、問題意識は持っています。少なくとも共催以上でやるものが月例会だったらいいんですけど、タイアップで向こうに乗っかっちゃっているやつは、権利とかの問題も出てきてしまうので、きちんと分けた方がいいのではないのかというのが、この間の理事会でのぼくの意見でした。シンポジウムを含めて月例会を年に 11 回と、その他に何かあればやればいいんじゃないかと思います。

牛木：月例会に関する規約はないんですか。

中塚：月例会といっているから、月に 1 回やっているという具合です。

徳田：1 回が総会で、1 回がシンポジウムだから月例会自体は 10 回で。

中塚：広い意味で言うと、シンポジウムも月例会と見なせるので、月例会が 11 回なんですよ。共催以上のものを月例会という、というのはわかりやすいですね。

徳田：そうしないと、なんかサロンのアイデンティティがなくなっちゃうような気がするんですよ。

中塚：この間ちょっと気になったのは、5 月 31 日にサッカー史研究会が主催で、賀川浩さんに話をさせていただくことになっているんですけど、ホームページの仕組み上そうせざるを得なかったとは思うんだけど、5 月は総会があるので月例会はない、でも、5 月 31 日のものは月例会みたい

な形で書いてあるじゃないですか。あれはどうなのかなと。

本多：あえてそうしたのは、あの中に津内さんの名前とかアドレスが入ってきてしまい、それは一般に公表するものではないだろうということで、あのようの説明を多く書かせてもらいました。

中塚：それで2009年度の予定の中では、こんな言葉はないのですが、「協力サロン」としています。

牛木：この総会は、月例会という言い方はしていないの。

中塚：総会は月例会という言い方はしていません。総会は総会です。総会のある月に、総会とは別に月例会を開催したこともあるんです。だけど、これも矛盾するんですが、月例会の回数に総会を入れているんです。飲み会だけのときも入っていますし（笑）。

基本的な位置づけとしては、共催以上のものを月例会と呼び、ここで言う「協力サロン」というものは、協力するけどカウントしないのかな。

徳田：この協力というのは、情報を出して導いてあげる協力ですか。

中塚：そうです。

徳田：例えば他に誰か人が行くとか、サロンが持っている資産を提供するとかではないんですか。

中塚：賀川さんは、会員ですから。

徳田：集客協力みたいな感じなんですか。

高田：広報支援という言葉を使っていましたね。結局、賀川さんは会員だから、サロン2002のことを言うのではなく、賀川さん自身のことをお話しされるわけで、会員だからサロンとして広報支援をしようということ。それで、行ける人は行こうと。

徳田：協力という名前をつけると、何か手伝っているみたいな感じがするので。

中塚：じゃあ、協力という名前はやりましょう。

牛木：単にサロンの側が、お前たちに協力してやるぞ、というわけではないんですよ。それはサロンの会員にも知るチャンスがあるということで、主催者の方もサービスを提供するわけですから、ギブ&テイクの考え方でいかないと。

中塚：6月は12日にやることにしていますが、7月は「お出かけ」として「川崎競馬体験ツアー」がほぼ実現しそうです。去年までのパターンだとこれを月例会にしてカウントしていたんですけど、今年度は、いま出ている話からすると、ホームでルンに行けるような月例会をやることになりますね。だから、実質年11回よりも多くやることになります。いいですかね。→了解

準備の進め方ということで、今年度新たに阿部さんと高橋義雄さんに、企画の月例会担当ということで、もちろん私も入りますけど、お二人が中心になり準備を進めていくことになります。

何か構想はありますか。

阿部：まだ思案中ですけど。

中塚：それはまた飲みながらでも、お話ししましょう。

②公開シンポジウムのテーマ

中塚：今年度のシンポジウムのテーマ、および柱になるようなものはどうですかね。去年は地域スポーツを柱に掲げたんですけど。

本多：一昨年のテーマはなんでしたっけ。

中塚：一昨年は、「サッカー文化を楽しもう スタジアム編」ということでやりました。本当は去年「サッカー文化を楽しもう メディア編」というのを考えていたんです。

高田：タイムリーなところでいうと、メガイベントの招致があるんですよね。オリンピックしかり、ラグビーワールドカップしかり、サッカーしかり。

牛木：シンポジウムはいつやるんですか。

中塚：それもあるんですが、12月には、遅くても1月までにはやりたいです。そうしないと、報告書が間に合わないんです。

牛木：東京オリンピック招致がダメになっている可能性が強いので。ぼくは最近後輩の新聞記者に言っていることは、東京オリンピックが決まったときの続きものとか、特集を準備しているだろうけど、オリンピックがダメになったときに、ダメになったときのその反省というような、つまりオリンピックがダメになって日本のスポーツはどうするかということの続きものとして、取材を続けるように言っているんです。だから、東京オリンピックが来ることを前提にシンポジウムを企画することはできないと思うんだけど。

庄司：ワールドカップの組み合わせは決まっていますよ。日本が出られないともないでしょうし。

高田：テーマがあった方がいいですよ。去年はテーマがあったから、いろいろと模索できたじゃないですか。テーマを決めつつ、かつそのときのニーズで、たまたまFC町田がJFLに昇格したとか、宇都宮さんが取材をしていたとか、その状況に応じて対応することができたから、この2年いい物ができたと思うんです。

あまりがちがちに決めてしまうと、先ほどの話みたいに落選したときに身動きが取れなくなってしまうけど、方向性としてオリンピックを取り上げるということにして、ダメだった場合に失敗談を語ってもらうのもならはだと思いうし。実際そういう話の方が、客が来るかもしれないです。何かしらテーマを決めておいた方がいい。去年地域に話移ったのは、みる文化をやったときに、地域と首都圏で違いがあったので、地域をみましようかということがありましたよね。それで地域をみるのは面白いんじゃないかということで、どこかで前年のテーマとつ

ながっていると面白いんじゃないかと思います。
都心と地域を比べると面白いとなった。

中塚：ぼくも話を聞きながら、「メガイイベント」とメモしている。ラグビーワールドカップが決まるのが7月の末です。2015年のワールドカップですね。

この場では、メガイイベントを取り上げたシンポジウムを今年度行い、月例会でもそれに関連するものを取り上げていくということによろしいでしょうか。

ちょうど7月の月例会に、徳田さんに「2010年南アフリカ大会に向けてーコンフェデ杯報告(仮)」をやってもらうことになっています。

12月、1月を目標に公開シンポジウムを開催しましょう。公開シンポジウムは、また今回も高田さんに事務局長をお願いしたいと思います。

③その他

中塚：あと、継続になりますけど、日本サッカー史を調べることもやっていきたいと考えています。日本サッカー史研究会などと協力しながら。具体的なターゲットとして、中村覚之助を今後も取り上げていきたいと考えています。

今度、JFA専務理事の田嶋幸三さんが熊野に来られるのだと、先日、中村統太郎さんから連絡をいただきました。協会内で何かあったのという問い合わせでした。

ざっとですが、「月例会の充実」と「他の組織、他の分野との連携」についてひと通り話を終えました。

規約の改廃については、先ほど話がありました4、5条のところだけでいいですよ。その他、サロンに関する重要事項は何かありますか。

本多さん、関西サロンの見通しはどうなっていますか。

本多：関西サロンは、昨日宮川さんとも話したんですけど、亡くなられた平田生雄さんを忍んでの会を兼ねて、そろそろやろうじゃないかと考えているところです。

中塚：ぜひお願いします。

以上、総会は終わり。
続きの議論は、華の舞へ・・・。